

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY



平成24年11月19日（月）～11月25日（日）〔平成24年第47週〕の感染症発生状況

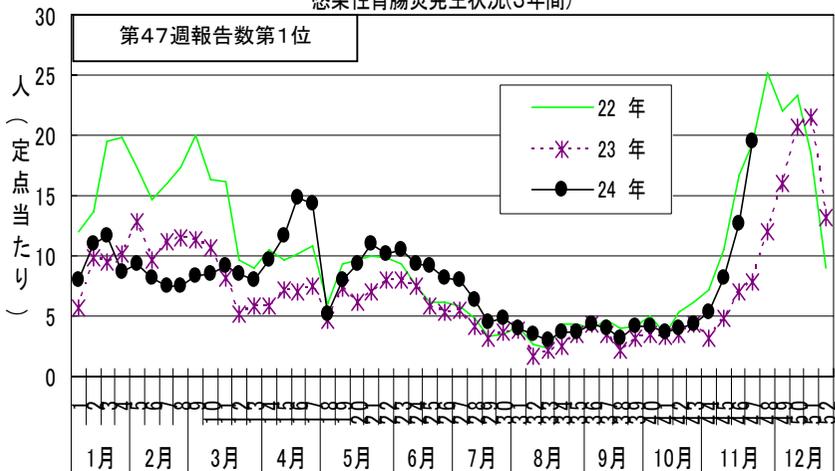
第47週で患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)RSウイルス感染症でした。

感染性胃腸炎は定点当たり19.56人と前週（12.61）より患者報告数は急増し、例年より高いレベルで推移しています。

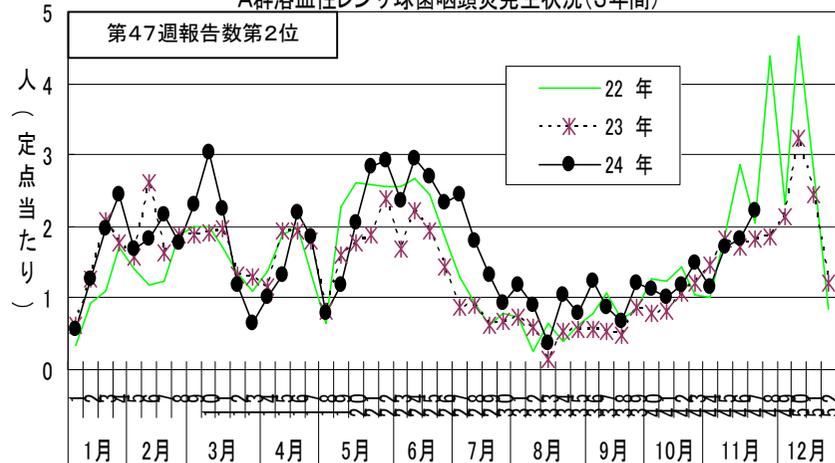
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.22人と前週（1.82）より患者報告数はやや増加し、例年よりもやや高いレベルで推移しています。

RSウイルス感染症は定点当たり1.09人と前週（0.61）より患者報告数はほぼ倍増し、例年に比べ非常に高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



警報基準値はもう目前！！～感染性胃腸炎患者急増中～

第47週の感染性胃腸炎の患者報告数が、流行発生警報基準値（定点当たり20人）に極めて近い値となっています。患者報告数の増加は例年よりも早く、このペースが流行期(12月中旬)まで続くと、大きな流行となる可能性があります。

今から、一人一人が感染しない・感染させない対策に努め、感染を広げないようにすることが大切です。

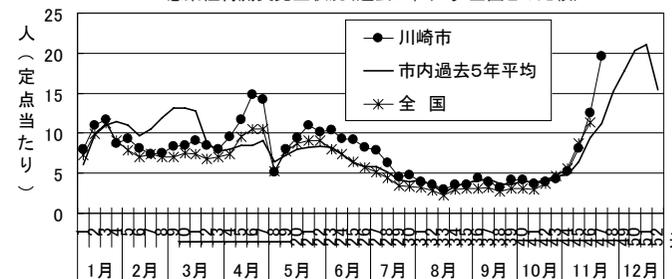
感染経路とその予防方法

感染経路としては、「ノロウイルスに感染した人の糞便や嘔吐物」、「ノロウイルスに汚染された食品」などが考えられます。

そのため、嘔吐物などの不適切な処理や、食品の不十分な加熱が感染の原因となることがあります。

- ①食品の加熱は「85℃で1分以上（中心部まで）」を目安にしましょう。
- ②手洗いを徹底するとともに、糞便や嘔吐物は、必要に応じて家庭用塩素系漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム）で消毒しましょう。

感染性胃腸炎発生状況(過去5年平均・全国との比較)



感染性胃腸炎は様々な細菌やウイルスなどが原因となりますが、冬場に急増する感染性胃腸炎の原因の多くは「ノロウイルス」です。
ノロウイルスの特徴を理解して、感染予防に努めましょう。

